

令和6年度 熊本県 英語教育改善プラン

目標

英語が「好き」「分かる」児童の育成

自分の住んでいる地域や郷土熊本に誇りをもち、英語で考えや気持ちを伝え合う児童の育成

○「英語の勉強は好き」と回答した児童の割合 「英語の授業の内容はよく分かる」と回答した児童の割合（前年度より増加）

○「英語で自己紹介ができる」（「話すこと[発表]」）と回答した児童の割合（前年度より増加）

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①県学力・学習状況調査の結果から、中学年の英語が「好き」の割合が昨年から増加。

小3 (R4:82.7%⇒R5:84.1%)
小4 (R4:74.5%⇒R5:77.4%)

未だ改善が必要な点

①県学力・学習状況調査の結果から、高学年の英語が「好き」「分かる」の割合について改善の余地がある。

「好き」(R5)
小5 (68.7%) 小6 (64.4%)
「分かる」(R5)
小5 (78.3%) 小6 (78.3%)

②言語活動においてコミュニケーションの目的や場面、状況等を設定することについて改善の余地がある。

2. 要因分析

①英語専科教員の増加に伴い、外国語活動を担当する教員の専門性が向上したことが増加の一因と考えられる。

①英語授業好事例等をHPに定期的に掲載し周知を図ったことで、各英語担当教員の自主研修の機会が増え、専門性の向上が図られたものと考えられる。

①授業における言語活動の質や量に学校・地域間の差が見られる。また、中学年の外国語活動から外国語科への円滑な接続が図られていない。

①「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の公表、達成状況の把握に学校・地域間の差があり、目標を踏まえた指導と評価の実施に課題がある。

②コミュニケーションにおける相手意識や目的意識を高める手段として、ICT機器やALTの効果的な活用が十分図られていない。

3. 目標を達成するための施策・事業

①①②英語授業づくりプロジェクトの実施

英語担当教員を対象に各地域の課題を踏まえた研修を実施し、学習指導要領に基づく基礎的・基本的事項の確実な定着に向けた授業改善及び英語による発信力強化に向けた取組を推進。

②「新KUMAMOTO English Standard」の活用

熊本の小中学生は「これだけは言えるようになる」ことを目指した基準となる英語表現文例集を作成。言語活動の充実及び目標をふまえた指導と評価の一体化を図る授業改善に向けた活用を推進。

②「肥後っ子ふるさと自慢イングリッシュ・チャレンジ」の実施

自分のことやふるさとについて英語で発表する機会を提供。ICT機器を効果的に活用し、A L Tに向けてプレゼンテーションを行い、その取組を発信。

① ②発信力に係る児童・生徒意識調査の実施

小学等5、6年生を対象に、英語による発信力に関するアンケート（「英語で自己紹介ができる」）を実施。英語による発信力強化に向けた取組の効果を検証。

■本県における一定の英語力を有する小学校教員の新規採用に係る取組。

・小学校教諭等受考者における一定の英語力を有する者への加点点制度。

・小学校教諭等受考者における青年海外協力隊等勤務経験者への特別選考制度（考査内容の一部免除制度）。

・中学校教諭等受考者に対する小学校教諭等の併願制度。

※中学校英語を受考する際、第2希望として小学校を併願することができる。

令和6年度 熊本県 英語教育改善プラン

目標

英語が「好き」「わかる」生徒の育成

自分が住んでいる地域や郷土熊本に誇りをもち、英語で考えや気持ちを伝え合う生徒の育成

○「英語の勉強は好き」と回答した生徒の割合 「英語の授業の内容はよく分かる」と回答した生徒の割合（前年度より増加）

○「英語で自己紹介ができる」（「話すこと[発表]」）と回答した生徒の割合（前年度より増加）

○CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合（R5：46.6%⇒R6：51.0%）

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得または有すると思われる生徒数の割合が増加。

(R4：45.3%⇒R5：46.6%)

②小中連携の実施割合が増加。

情報交換 (R4:87.6%⇒R5:91.7%)

交流 (R4:66.1%⇒R5:73.3%)

加わらぬ連携 (R4:23.1%⇒R5:40.8%)

未だ改善が必要な点

①県学力・学習状況調査の結果から、英語が「好き」「分かる」の割合に改善の余地がある。

「好き」 中1 (R4:56.9%⇒R5:57.5%)

中2 (R4:48.6%⇒R5:48.3%)

「分かる」中1 (R4:65.0%⇒R5:62.9%)

中2 (R4:56.0%⇒R5:54.8%)

②英語で自分の考えや気持ちを伝えるために必要な基礎的・基本的事項が身に付いていない。

R5全国学力・学習状況調査（英語）結果
平均正答率（42）

2. 要因分析

①県、市町村、中学校等が連携し、生徒の外部検定試験へのチャレンジを支援したことにより増加したと考えられる。

②各管内等の小中学校等の英語リーダーが連携して各地域の課題を踏まえた研修を企画・実施したことで、小中連携の必要性について理解が深まり、各取組の実施割合が増加したものと考えられる。

① ②授業における言語活動の質や量、また、教師の英語の使用状況に学校間の差が見られる。

① ②「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の公表、達成状況の把握に課題があり、目標達成に向けて生徒ができるようになるまで見届けるなどの指導と評価の実施に課題がある。

②コミュニケーションにおける相手意識や目的意識を高める手段として、ICT機器やALTの効果的な活用が十分図られていない。

3. 目標を達成するための施策・事業

①②①②「英語授業づくりプロジェクト」の実施

英語担当教員を対象に各地域の課題を踏まえた研修を実施し、学習指導要領を踏まえた基礎的・基本的事項の確実な定着に向けた授業改善及び英語による発信力強化に向けた取組を推進。

②「新KUMAMOTO English Standard」の活用

熊本の小中学生は「これだけは言えるようになる」ことを目指した基準となる英語表現文例集を作成。言語活動の充実及び目標を踏まえた指導と評価の一体化を図る授業改善に向けた活用を推進。

① ②「わくわくサークル」の実施

日頃の授業実践に役立つ授業づくりのヒントやアイディアの交流及びスーパーティーチャーによる実践発表等をオンラインで実施。

②「肥後っ子ふるさと自慢イングリッシュ・チャレンジ」

自分のことやふるさとについて英語で発表する機会を提供。ICT機器を効果的に活用し、ALTに向けてプレゼンテーションを行い、その取組を発信。

② MEXCBTを活用した発信力の強化

文部科学省のCBT問題の周知及びモデル校において活用を図り、好事例を収集、発信。

②発信力強化に向けたモデル事業の実施

発信力強化を踏まえた授業改善による総合的な英語力向上を目指し、「話すこと」を客観的に評価するスピーキングテストを、県内の抽出校等を対象に実施し、その効果を検証。

① ②発信力に係る児童・生徒意識調査の実施

中学生等を対象に、英語による発信力に関するアンケート（「英語で自己紹介ができる」）を実施。英語による発信力強化に向けた取組の効果を検証。

令和6年度 熊本県 英語教育改善プラン

目標

英語を使って国内外で活躍し、他者と協働して対話を深めることのできるグローバル人材の育成

○CEFR A2/B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合

(R5：A2以上 43.1%、B1以上 17.7% ⇒ R6：A2以上 48.0%、B1以上 20.0%)

○スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合 (R5：49.5% ⇒ R6：60.0%)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①授業中、50%以上の時間言語活動を行っている学校の割合が増加。

(R4:43.8%⇒R5:47.1%)

②「(A)生徒が1人1台端末・パソコン等を用いて発表や話すことにおけるやり取りをする活動」や「(B)生徒がキーボード入力等で書く活動」等の項目でICT機器の活用状況が向上。

(A) (R4:93.6%⇒R5:97.9%)

(B) (R4:93.6%⇒R5:100.0%)

未だ改善が必要な点

①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合が横ばいであり、目標値の50.0%に到達していない。

(R4:42.1%⇒R5:43.1%)

②「話すこと」と「書くこと」両方のパフォーマンステストを行なっている学校の割合が昨年から減少。

(R4:61.8%⇒R5:49.5%)

2. 要因分析

①指導力向上研修会において、外部専門家や県内の指導教諭を招き、言語活動の充実を図るための指導法や事例等について県全体で共有したことが改善が進んだ一因であると考えられる。

②教育課程熊本県研究協議会や各種研修会でICTやALTを活用した言語活動や評価方法に関する全ての学校の事例を提供したことが一因と考えられる。

①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒の割合が横ばいであることが一因であると考えられる。

(R4:11.4%⇒R5:11.6%)

②年間や卒業時を見通した指導と評価の計画を立てていても、十分に活用されていない場合がある。

3. 目標を達成するための施策・事業

①言語活動の更なる充実にに向けた指導・助言
・教育課程熊本県研究協議会、指導力向上研修会や学校訪問における指導・助言を通じて言語活動の充実を図る。

②更なる発信力の育成
・ICTやALTの活用により、グローバルに活躍することが期待される層を効果的に育成している県内の先進的な事例を、各種研修会等で県内の英語教員と共有する機会を設ける。
・生徒向けの即興型英語ディベート交流会を実施し、英語による対話力及び発信力を高める機会を設ける。

①教師の指導と評価に係る技術の向上
・生徒の英語力を適切に評価し、指導に活かす技術を向上させるため、指導力向上研修会にて、大学教授や英語教員による講義・ワークショップ等を実施する。
・小中高間での学びの接続や連携等を効果的に行っている学校に聞き取り調査を行い、好事例を研修会等で共有する。

②発信領域のパフォーマンステスト実施率の向上
・スピーキングテストとライティングテストを計画的かつ効果的に実施している学校への聞き取り調査等を行い、各種研修会等で事例を共有する機会を設ける。